

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 4490400142 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 福寿会 | | |
| 事業所名 | グループホーム 日田園 | | |
| 所在地 | 大分県日田市大字石井字熊の下711番地1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年10月31日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年2月16日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | 福祉サービス評価センターおおいた | | |
| 所在地 | 大分県大分市大津町2丁目1番41号 | | |
| 訪問調査日 | 令和3年11月24日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居施設ではあるが、入居者・職員間に緊張感は少なく、家庭的な雰囲気である。入居者個々の生活のリズムに合わせながら、入居者同士の関係づくりを大切にしている。お互いが協力している姿も多くみられる。前年度から引き続き新型コロナの感染拡大などに影響を受けている。長期間の面会自粛の中で入居者ひとり一人を細かく見ながら小さな変化に気付けるように職員ひとり一人が気を付けている。毎月のお送りする請求書に同封する手紙にはちょっとしたことも記入し様子を伝えたり、日々の活動の様子も写真に撮ったものでご家族と共有している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・コロナ禍で面会制限の続く中、利用者の日常の様子を丁寧に伝える手紙に行事の写真を添える等、家族に安心してもらえるよう工夫している。
- ・本人の趣味や力を活かした個別のケアに取り組み、一人ひとりのペースで暮らせるよう支援している。
- ・法人全体の研修体制が充実しており、職員は、ケアの向上や資格取得に向けて積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 新型コロナの感染拡大に伴い、地域との交流は困難であったが、個々の思いを尊重して可能な活動を実践してきた。全職員で全入居者の暮らしを充実させていけるように意識している。 | 法人理念を玄関やリビングに掲示し、毎日唱和している。管理者は折に触れ、職員にグループホームの在り方を伝えながら理念の共有と実践につなげている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 徐々に運営推進会議なども開催し地域の方に活動報告できたが、利用者が個々で地域と日常的に交流は困難であった。 | 月1回、法人の機関紙を地域に配布し、介護の情報を発信している。感染対策を考慮しながら、小学校の鼓笛隊が園庭で演奏してくれる等、交流を深めている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 法人が発行している新聞にて認知症についての情報発信を行っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 10月今年度初の対面での運営推進会議を開催4月からの3回分については資料についての意見を文章にもらうことができ、日々の支援に活用している。 | 市内の感染状況に応じて、文書での開催を含め、定期的に運営推進会議を行っている。参加者に資料を送付し、意見やアドバイスももらっている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議時の報告や相談事項についてアドバイスももらっている。 | 市担当者は運営推進会議に参加しており、アドバイスや情報発信をしている。事業所は実践状況を伝えながら、市担当者に相談する等、協力関係を築いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 法人全体での身体拘束の研修に参加。職員間で身体拘束についてしている。管理者は法人内で開催される身体拘束廃止委員会に参加している。 | 定期的な研修や身体拘束委員会を設置しており、法人全体で身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。気になる言葉がけについて職員会議で話し合っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | 法人全体での高齢者虐待の研修に参加。改めて高齢者虐待についての学びを深め日々のケアを振り返っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 法人全体での権利擁護の研修に参加し学ぶ機会を持っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 重要事項説明時には丁寧に説明し、不安や疑問など尋ね、安心して頂くように心掛けている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | コロナ禍で直接伺う機会が少なくなっているが、ご家族には毎月の手紙の中で意見や要望を尋ね反映させるように努めている。 | 家族には月1回、日々の様子を手紙で伝えながら、意見や要望を聞いている。また、電話で直接意見を聞くことも多く、本人の趣味を取り入れたり、ガラス越しの面会等、意見を反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月、職員ミーティングを開催しており入居者の介助の内容や、業務について確認しより良い運営ができようように反映させていくように努めている。 | 法人の人事考課で、職員一人ひとりの働き方等の意見を聞く機会を設けている。職員会議や日々のケアの中で、職員の意見を積極的に反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 法人では年に2回の自己評価、年1回の上司による評価をもとに、勤務状況や実績を把握し、反映させる仕組みを作っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人全体での職員研修には職員全員が参加している。法人外の研修はWeb研修となっており学習の機会も増えている。今年度資格を習得できた職員もおりスキルアップしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市内8事業所で作られている連絡協議会に参加している。会議は2ヶ月に1回の開催で事業所ごとの状況や困難事例など報告し合い、サービスの質の向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 食の段階で聞き取ることが困難な場合は日常の会話の中から不安な事や要望などを聞き取り関係づくりに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族の不安や要望などに耳を傾け本人・家族と職員の関係づくりに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人や家族のその時必要な支援について、職員が見極め関わるができる様努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者ひとり一人がお互いに他者との関係が気づくことができている。職員は必要な場面での支援行うように努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 毎月、グループホームでの生活の様子を報告している。コロナ禍で面会自粛期間が続いており、細かく報告することでご家族と情報共有し本人と支えていくよう努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍で直接伺う機会が少なくなっているものの、以前住んでいた近所の方から敬老会の記念の品などもって来て頂くなど関係が続いている。 | 手紙や電話のサポートを行い、本人がこれまで大切にしてきた馴染みの関係が途切れないよう支援している。感染対策をしながら馴染みの美容師が整髪に来てくれる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者の個々を尊重し、共同生活の中で共助できる関係性を築けるよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 本人や家族との関係性を保ち、必要時にはホローするように努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ひとり一人の希望や意向の把握について、毎日の生活の中から汲み取るよう努めている。職員間で共有することでその人らしい暮らしを目指している。 | 本人の生活歴や、日々の暮らしの中での本人の言葉を記録している。全職員で共有しながら、本人の思いに添ったケアに努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人との話や、家族との話より今までの暮らしを把握しグループホームでの生活につなげていくよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の過ごし方や心身の状態を把握し、利用者それぞれに有する能力をグループホームで活かせる様よう努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日頃の生活状況や身体状況について確認し把握することで、今必要な支援を計画に反映させ計画作成するように努めている。 | 24時間シートに生活状況を記録している。月1回職員ケア会議でモニタリングをしながら、介護計画の見直しにつなげている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子やケアについては24時間シートの記入している。シート1枚に排泄や食事についても記入しておりすぐに確認することができる。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | グループホーム内で個々のニーズに対応することが困難な場合には家族に協力を得るように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 未だに面会自粛が続いているものの、一時的に解除された際には理美容院の利用など行うにしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居以前からのかかりつけ医に受診している。基本的には家族同伴をお願いし、必要時には職員が同行して日々の生活状況について報告し助言を受けるように努めている。 | 本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。受診の際には、本人の様子を伝え、急変時等、必要な際には職員も受診に同行し、医療との連携を図っている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日々の生活の中での変化について看護師や管理者に報告し、早期対応・受診ができるように努めている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者の入院時には状況提供票を提出し入院時のストレスや負担の軽減につなげている。退院時入院中の情報提供にて今後の生活につなげられるように努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化や終末期の対応については当事業所では対応できないことを説明している。新規入居時には入居以降の対応や方向性について本人や家族に確認するように努めている。 | 入居時に事業所のできることを、できないことを伝えている。状態の変化に応じて、家族に説明している。看取りはおこなわない方針であるが、転居先の提案等、切れ目のない支援に努めている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 法人全体での救急法や事故発生時への対応について確認している。マニュアルを作成し適切な対応に努めている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 日頃の避難訓練を実施し、訓練用消火器で使用手順を確認する。日田市より災害時避難計画の作成要請あり、体制の再確認を行う。 | 年2回、火災を想定した避難訓練を行っている。備蓄は、車で2分の所にある法人本部に用意しているが、事業所内には準備されていない。 | 自然災害等、様々な想定での訓練や避難方法、事業所内の備蓄について話し合い、対応方法を全職員が身につけることに期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------|------|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ひとり一人の今までの生活や性格などを考慮して声掛けや対応している。毎日の生活の中で人格を尊重し相手の立場に立った視点で対応するよう心掛けている。 | プライバシーや尊厳を守ることについて、定期的に研修を行っている。日々のケアの中で言葉遣い等、気になる事があれば、職員会議で注意喚起をしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日々の生活の中で自己決定ができるように声かけや誘導などで働きかけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ひとり一人の生活ペースに合わせた生活が送れるように努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 季節に合わせた洋服選びができるように家族に衣替えを依頼している。女性の入居者には時折爪のおしゃれをしてもらうなどいつもとは違うおしゃれをする機会も設けている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事は法人の厨房で調理をお願いしている。誕生日や行事食などにて食事の楽しみを提供。メニューについて利用者との話も盛り上がっていることも多い。直接的な調理はない為テーブル拭きや片付けなどのお手伝いをお願いしている。 | 三食とも、法人本部の厨房で調理した食事を提供している。管理栄養士が作成した献立で、誕生日や行事食等、食事を楽しめるように工夫している。目標達成計画に調理の時間を作ることを挙げているが、達成できていない。 | 利用者と職員が、同じ食卓を囲んで調理をしたり、会話を楽しめるような工夫を、さらに重ねていくことに期待したい。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量や水分量は欠かさず記録し職員全体で把握している。食事形態はひとり一人に合わせて提供。利用者の要望や食事の摂り方などですぐに変更する事で確実に食事・水分が摂れるよう努めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後口腔ケアへの声掛け・誘導・支援を行っている。ひとり一人の口腔ケアへの実施については確認していく。義歯については夜間洗浄剤に浸し、においなどにも注意している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ひとり一人の排泄パターンを把握し声掛け・誘導を行っている。職員からの声掛けに対して拒むこともある為、本人の行動に合わせて「ついで」の行動として誘導するなどの支援を行っている。 | 一人ひとりのタイミングに合わせた声かけや誘導を行っている。職員は本人のプライバシーを配慮した声かけを心掛け、排泄の自立に向けた支援を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 必要に応じて主治医に便秘薬など処方してもらい服用し調整している。体操や散歩などのへ参加してもらい身体を動かし便秘予防に取り組んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴について週3回、曜日・時間帯ともに決めているが、入居者の希望や皮膚状態などによって柔軟に対応することができる。今までの生活で使用していたシャンプーなど持ち込むなどここに合わせた対応も少しずつできている。 | 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、週3回の入浴を基本としている。本人の希望に応じて、入浴回数を増やすこともできる。好みのシャンプーを使う等、入浴が楽しみになるよう支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ひとり一人の心身の状態を把握し、個々に合わせた休息や睡眠がとれるように努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個々の薬の用法・用量について確認し確実に服用できる様な体制を取っている。入居者の状態など主治医に報告・相談して内服について変更など行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ひとり一人の得意不得意を把握し楽しむ活動を提供している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | コロナ禍で制限がある為、敷地内での散歩するなど戸外で季節を感じる事を心掛けている。感染者数が落ち着いてきたこともあり、一時的に面会が解除になり家族との外出も可能となっている。 | 近くの公園にアジサイ等、季節の花を見にドライブに出かけている。また、天気の良い日には、敷地内を散歩したり日向ぼっこを楽しむなど、閉塞感を感じないよう支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 利用者による金銭管理は行っていない。ほしいものがある時は職員が預り金で購入している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者の希望で家族に電話する事や家族などからかかってくる電話について柔軟に対応している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | フロアの片面が窓の為明るい。その為夏は午後から室温が高くなる為エアコンなどにて快適な温度を保てるよう掛けている。毎日の清掃や感染症対策の消毒など施行。日中は思い思いの場所で過ごせる様努めている。 | 窓から陽が差しこみ静かな空間となっている。利用者が思い思いの場所で居心地よく過ごせるように、テーブルやソファの配置を工夫している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用空間の居間では、フロアで思い思いの場所で過ごしている。食事用のテーブルではなじみの関係が出来上がっており、会話が盛り上がる様子もみられる。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室はこじんまりとした造りになっており、入居時に自宅で使用していたテレビやタンスなど持ち込むこともでき、居心地よく過ごせる工夫をしている。 | タンスやラジカセ、犬のぬいぐるみ、写真等、本人の好みのものや使い慣れたものを活かして、居心地よく過ごせるよう工夫している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 個々の居室やトイレについてわかりやすく目印を付けるなど不安や混乱、失敗を回避し自ら行き来できるように工夫している。 | | |